

# 郷土のあゆみ 2

—— 新世紀へ向かって

■1889年(明治22)自治体規模を300~500戸として県下1730町村を413に減らす。  
 ■1956年(昭和31)2回目の町村合併で、県下379市町村が123に減る。人口8000人規模、新制中学校を独立して維持管理することが基準。現在90市町村。  
 ■5月1日、荒館村と川南村が合併し新村「北会津村」発足。5月、初代村長に牧原源一郎旧荒館村長を公選。初代議員31名。12月の選挙で22名。現在16名。庁舎は旧荒館村役場に置き、1959年(昭和34)中荒井に新築。荒館村とは、荒井村と館ノ内村が1954年(昭和29)合併した村のこと。

## 北会津村誕生。

## 全国初の全村圃場整備推進。



★昭和四年完成した中学校とマンモス田植え。

■この年、農業基本法成立。貿易自由化の前に、主産地形成、規模拡大や機械化等による農業構造改善、工業の生産性にも追い付こうとした。  
 ■「新しい村づくり」の基本構想は①阿賀川の濁水。宮川の洪水。この水との戦いから脱却しよう。②川南。館ノ内、荒井の旧三力村を結ぶ幹線道路を創ろう。③耕地率を高めながら、純農村の構造を抜本的に整備し直そう。  
 ■これを実現する全国初の全村圃場整備事業は一九六三年(昭和三八)着工。村を南北に貫く幹線道路を創出し、沿線に公共施設を配置して新しい村の骨格を創ることに始まり、一二年の歳月と四三億円の巨費を投じて、一九八四年(昭和五九)完了。耕地率は六四%から七〇%へ。



★昭和三年鶴沼川の堤防決壊による洪水。

## 北会津中学校完成。

### 水稻の生産調整始まる。

■全村圃場整備事業によって村の土地利用は、田三九・四%↓五七・六%、畑二三・八%↓九・五%となり、水田営農型化。  
 ■その事業中、一九七〇年(昭和四五)の水稻一割減反に始る長期の生産調整があり、村は状況を逆手にとった複合化を推進する。北会津村の現風景である水田地帯の施設園芸団地はこうして誕生。

## 農村総合整備モデル事業着手。

150年農村総合モデル事業着手。



155年農村環境改善センター

■1975~87年(昭和50~62)会津地方初の取組み。  
 ■おもな事業は、憩い話合いの場として、農村環境改善センター(大研修室・視聴覚室・営農相談室・全天候型のテニスコートとバレーコートなど)と農村公園10カ所を整備。集落内道路施設の舗装、集落排水施設の完備、食生活・疲労回復体操・農業の安全使用・家庭内外環境整備・無理無駄のない暮らし・話合いなど生活改善6課題の推進など。

幹線道路の県道会津坂下本郷線沿いに、新しい村・北会津のシンボル施設が次々と実現。今日の村の骨格をなす。  
 ■1959年(昭和34)村役場を中荒井に新築。  
 \*蟹川橋も永久橋に。  
 ■1962年(昭和37)  
 \*組合員1613のマンモス北会津村農協誕生。  
 ■1965年(昭和40)  
 \*農耕トラクター登場。  
 ■1966年(昭和41)  
 モダンな統合中学校、全国13の農協カントリーエレベータ建設。  
 ■1969年(昭和44)  
 \*コンバイン登場。

昭和50年  
1975

昭和45年  
1970

昭和42年  
1967

昭和36年  
1961

昭和31年  
1956



教育長/中山 雄助



収入役/水上 洋一



助 役/松田 秀雄



村 長/庄 徳一

## 議会と行政組織 夢プラン21の推進役。

全国に数々の実践例を発信しながら新しい村づくりの先導役を担い続けてきた北会津村の議会は、村民の代表である一六名の議員がさらに住みよい郷土づくりをめざし、先進の地域経営情報の受発信など果敢な議会活動を展開しております。

第三次振興計画に基づく村行政の推進にあたっては、職員の条例定数九九のなかで行政需要の多様化に柔軟に対応しながら住民サービスにつとめ、合理的な運営をはかります。